

記事を読んで、問いに答えましょう。

2021年12月18日朝刊

県が2021年度に実施した男女共同参画に関する県民意識調査によると、社会的・文化的に形成された性別を意味する「ジェンダー」の認知度は8割近くに上り、2年前の前回調査と比べて20ポイント増加した。ジェンダーに基づく差別や偏見の解消が一般常識になりつつある一方、意識調査では依然として性別役割分担の固定観念が根強い実態が浮き彫りとなった。

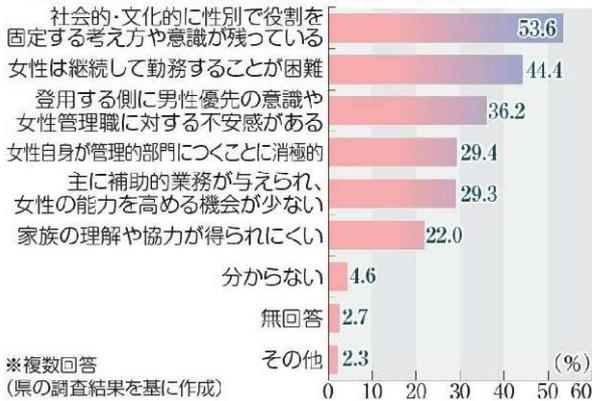


県民意識調査

ジェンダー認知度8割

2年前から20ポイント上昇

管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由



よると、東京五輪・パラリンピック開催で人権意識が高まったことに加え、女性蔑視発言で森喜朗氏が大会組織委員会の会長を引責辞

任した問題などが背景にあるという。意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由としては「社会的・文化的に性別で役割を固定する考え方や意識が残っている」が53.6%で最多を占めた。次いで「女性は継続して勤務することが困難」44.4%、「登用する側に男性優先の意識や女性管理職に対する不安感がある」36.2%の順となった。調査は2001年度から2年に1度の隔年で実施している。今回は5〜6月、県内在住の20歳以上の男女826人から回答を得た。回収率41.3%。（政治部・鈴木文之）

①ジェンダーとは何でしょうか。

②円グラフの結果を見て、思ったことを書きましょう。

③「ジェンダー」という言葉が浸透した理由は何ですか。

年 組 名前

解答例

2021年12月18日朝刊

記事を読んで、問いに答えましょう。

県が2021年度に実施した男女共同参画に関する県民意識調査によると、社会的・文化的に形成された性別を意味する「ジェンダー」の認知度は8割近くに上り、2年前の前回調査と比べて20ポイント増加した。ジェンダーに基づく差別や偏見の解消が一般常識になりつつある一方、意識調査では依然として性別役割分担の固定観念が根強い実態が浮き彫りとなった。



県民意識調査

ジェンダー認知度8割

2年前から20ポイント上昇

管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由



よると、東京五輪・パラリンピック開催で人権意識が高まったことに加え、女性蔑視発言で森喜朗氏が大会組織委員会の会長を引責辞任した問題などが背景にあるという。

意識決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由としては「社会的・文化的に性別で役割を固定する考え方や意識が残っている」が53.6%で最多を占めた。次いで「女性は継続して勤務することが困難」44.4%、「登用する側に男性優先の意識や女性管理職に対する不安感がある」36.2%の順となった。調査は2001年度から2年に1度の隔年で実施している。今回は5月6日、県内在住の20歳以上の男女826人から回答を得た。回収率41.3%。(政治部・鈴木文之)

①ジェンダーとは何でしょうか。

社会的・文化的に形成された性別を意味するもの

②円グラフの結果を見て、思ったことを書きましょう。

・「ジェンダー」の認知度は8割と高く、思っていたよりも言葉が浸透している。

・「ジェンダー」の認知度は高くても、性別役割分担の固定観念が根強く残っている。 など

③「ジェンダー」という言葉が浸透した理由は何ですか。

- ・東京五輪・パラリンピック開催で人権意識が高まったから。
- ・女性蔑視発言などが問題として取り上げられたから。 など

年 組 名前